

マルトミです



この1年間の御愛顧

誠に有難うございました。

平成24年もまもなく終わろうとしています。

昨年の3月11日、世界が変わってしまったあの日から1年9か月が過ぎました。この間、思うように進まない復興に切ない思いをしたり、ぎくしゃくする国際関係などで憂鬱な気分になせられたり、景気の動向も含めて暗い話題が多かった一方で、ロンドン五輪での日本人の活躍や、山中教授のノーベル賞受賞など嬉しいニュースもありました。皆様は如何お感じでしたでしょうか。

つらくても忘れてはならないこともあります。ここしばらくは、できるだけ良かったことを頭に浮かべ明るい気持ちで過ごしたら、世の中も変わってくるかもしれません。

来る平成25年が皆様にとってよりよい年となりますことを心からお祈り申し上げます。

(当社では、現在年賀状による新年のご挨拶はいたしておりません。何卒ご理解のほどお願い致します。)

マルトミカレンダー (12月 ~ 2月) 赤色は休業日

12月							1月							2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	5						1	2
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28		
30	31																			

1日 創立記念日

12月30日~1月6日正月休業

◎ 冬期間は、降雪状況により休日も除雪機修理対応のため営業致します(但し12/31~1/2は除きます)。



株式会社 マルトミ

本社: 上越市西田中236-9(企業団地内)

TEL(025)524-1181 FAX(025)524-1184

E-mail: info@maru-takada.com

ホームページ www.maru-takada.com

新潟県認定農業機械整備工場(大) ・ ヤンマー農業機械整備士工場 ・ ホンダ ベスト特約店

除雪機ご使用前の注意点と安全な使い方

今年も雪のシーズンがやって来ました。お手持ちの除雪機をこれから点検・試運転される皆様に、使用前の注意点と、使用されるときに大事なポイントをそれぞれ3つずつ挙げておきますので、ぜひ確認をお願い致します。

除雪機は怖いと思われている方もおられると思いますが、きちんと使用法を守って作業される限り、事故の心配はまずありません。とはいえ、硬い雪を砕いて遠くに飛ばす強力な機械ですから、くれぐれもご注意の上、どうか安全にご使用くださるようお願い致します。

<エンジンをかけるとき>

① エンジンオイルがちゃんと入っていることをお確かめ下さい。

オイルの量が少なかったり汚れていたりすると、大きな故障に結びつく危険があります。

② バッテリーは十分ですか。

バッテリーが不足していると、エンジンがかからなくなったり、雪を飛ばす筒が回転しにくくなったりしますのでご注意ください。そうなった場合は充電が必要です。

③ キャブレターが詰まっていますか。

バッテリーは十分にあるのにエンジンがかからなかったり、かかっても音が波打つようなときはキャブレター(気化器)の詰まりが考えられます。そうなった場合は修理が必要です。

<安全な使い方>

① ハンドルから離れるときは必ずエンジンを止めてください。

基本中の基本です。これさえ守っていただければまず事故は起きず怪我することはありません。

② 雪を掻き込む部分(オーガ)や掻き込んだ雪を飛ばす部分(ブロア)に触れるときは、エンジンを止めて、それらも完全に止まっていることを確認してください。

しばらく惰性で回っている場合もありますので、必ずご確認下さい。

③ 熱くなっているマフラーに触れないでください。

とくに小型の除雪機はエンジンのマフラー(排気筒の部分)がむき出しになっている機種が多く、エンジンを止めた後もしばらくは熱い状態になっていますので、手を触れないようご注意ください。

それから、作業中 除雪機の周りや雪を飛ばす方向に人や車などがいないことを充分確認してください。とくに雪の中に小石などが入っていると遠くに飛んで大変危険です。

除雪機の点検・修理はおまかせ下さい。

降雪前の点検も、時期中の修理対応も、除雪機のことなら何でもお任せ下さい。迅速・丁寧・低料金にてご対応させていただきます。また部品類も豊富に取り揃え、在庫のない場合でもすぐにお取り寄せ致しますので、ぜひご利用願います。



この一年を振り返って

今年も下記の3回のイベントを開催しました。

3月24・25日 春のスペシャルデー

7月14・15日 移転15周年特別感謝祭

10月13・14日 除雪機・農機他展示商談会



合計すると延べ1200人の皆様にご来場くださり、毎日にぎやかに行うことができました。本当に有難うございました。特に夏のイベントでは、移転15周年ということもあり、いつもは日曜だけの「緑の市場」を土・日連続で開催したり、破格値のアウトレット商品をたくさん並べたりして、おかげさまで大変ご好評をいただきました。

今年には当社の移転15周年でしたが、再来年の2014年は、大正3年に稲田で丸富商会という名前で創業してからちょうど100年目となります。1世紀という時の重みを噛みしめながら、ここまで支えてきて戴いた皆様にどのように御礼をしようかと考えています。

中川卓夫さんが日本農業賞受賞、県の代表に

先日NHKのテレビでも報道されましたが、「どぶろく卓」で有名な牧区坪山の中川卓夫さんが、今度は日本農業賞の新潟県最優秀賞を受賞されました。この賞は、JAとNHKが主催し、日本農業の確立をめざし意欲的に経営や技術の改革と発展にとりくみ、地域社会の発展に貢献している人たちを表彰するものです。今回受賞されたのは、集落が力を合わせて行う安全・安心の米作りや、その米を使ってのどぶろく生産、美しい環境維持の活動などが総合的に評価されたもので、その中で、私たちもNPO法人エコロジー・ネットワークの一員として、坪山の生き物調査でお手伝いをさせていただきました。

中川さんは、今度は新潟県代表として全国大会を目指すこととなります。発表は来年1月ということですが、次は日本一となられることをお祈りしています。

御客様訪問

上越市 (有)富士黒板 藤村茂さん

藤村さんは、大和で黒板を制作する会社を経営されています。今では、黒板といっても以前の木製のものではなく金属製のホワイトボードが主流ですが、富士黒板さんでも、既製品以外にロール状に巻かれたスチール板を加工して、御客様の御希望に合わせたオリジナルのホワイトボードを制作しています。上越でそれができるのは富士黒板さんだけだそうですので、オリジナル品をご希望でしたら、ぜひ御相談ください。(TEL 025-523-4410)



こちらでは今年、大型のヤンマー除雪機をご購入いただきました。これまで25年ほど使用されていた除雪機もヤンマーで、これまで頑丈で故障もなかったことから、製品的にもとても信頼してくださっています。藤村さん、どうも有難うございました。

豊作を招く ホウネンエビ

今では考えられないことですが、かつては日本でも、農作物を育てるために強い農薬が使われたことがありました。私がまだ小学生だった頃、学校帰りにあぜ道を歩くと、死んで白くなったドジョウやヒルが田んぼの水底に点々と散らばっていたことが思い出されます。

今は農薬の規制も厳しくなり、農作物の安全性も当時と比べ格段に高まりました。一時は姿を消していた田んぼの生き物たちも、チョウセンブナなどを除き、かなりの種類がまた戻ってきています。

そんな生き物たちの中で、自然豊かな田んぼの象徴とも言えるのがホウネンエビです。農薬を使わない水田に発生し、これが出た田んぼは豊年満作になるとの言い伝えから名前をつけられたそうです。エビという名がついていて一応は甲殻類ですが、本当のエビではなく、むしろミジンコなどに近い生き物です。

この夏、三和区の友人から田んぼにホウネンエビがいるという連絡をもらい、早速行ってみました。以前、理科の教材の飼育セットで卵から育てたことはありましたが、自然のものを見るのはこれが初めてなので、わくわくしながら教えられた場所で水の中を覗き込みました。そして、最初の1匹を見つけた時の印象は、「エッ、これが？」というものでした。前に飼育したものは、小さくて、透き通って、まるでかげろうのように儂げな姿だったのに、自然の中で見るホウネンエビは体長が3センチ以上あり、水の中層で静止している姿は堂々としたものでした。尾の先が鮮やかな赤色で彩られ、一見するとまるで魚のよう。タキンギョ、ホウネンウオという別名があることや、江戸時代にペットとして飼われていたということも、なるほどとうなずける感じです。

ホウネンエビの大きな特徴のひとつは、卵が非常に乾燥に強いことで、乾いた状態で何年も生き続けることができます。そしてその細かい卵が風に乗って遠くまで移動し、それまでいなかったところに突然現れたりもします。熱帯魚を飼って繁殖を楽しんでいる人にはよく知られているブラインシュリンプも海産のホウネンエビの一種で、乾燥した粉末状の卵を塩水の中に入れて、孵化させた幼生を稚魚の餌にします。

実際に卵の状態でも何年生きられるかというのはとても興味のあるところですが、はっきり

したことはわかりません。でも海外の海産の種類(ブラインシュリンプ?)では数十年生きたというデータもあるそうなので、かなり長く生きられるのは確かでしょう。

例えば、永いときを乾燥状態で眠って過ごし、後の世界で誕生したホウネンエビは、自分の遥かな子孫たちを兄弟として一緒に暮らすのでしょうか。SF作家なら、これをヒントに面白い話が書けそうですね。(ミ)

